

2016年度 日本動物行動学会賞 受賞者 (2016年 11月 12日 受賞)

区分 (1) 「動物の行動に関する新たな現象の発見」

松本有記雄氏「小型魚類ロウソクギンポにおける雄の強制配偶と雌の対抗戦術」
受賞理由

松本有記雄氏は、ロウソクギンポにおける配偶をめぐる雌雄間の利害対立に関する一連の研究を行って大きな成果を上げました。その概要は以下の通りです。ロウソクギンポの雄は複数の雌から卵を獲得して、それを保護します。ただし、卵保護開始から数日すると雄性ホルモンレベルが低下する繁殖サイクルを持っていて、この生理的制約によって追加配偶可能な状況でも配偶が制限されます。雄は求愛期間中に少数の卵しか獲得できなかった場合、保護卵のすべてを卵食します。一方、雌はこの雄の卵食を回避しようとして、すでに卵を保護している雄を配偶相手として好む傾向があります。さらに、この雌の好みに対抗して、卵を持たない雄は雌を巣に閉じ込めて産卵を強制することが明らかにされています。強制配偶を行う雄は、雌を効率的に閉じ込めるために体にフィットした巣を利用します。一方、雌は他の雌の産卵を観察して同じ巣に産卵することで、雄による強制配偶を回避する戦術（コピー戦術）もとっています。こうした複雑な雌雄の駆け引きを明らかにした一連の論文は、本学会賞の趣旨にふさわしい良くまとまった業績で、体外受精を行う動物における強制配偶の初めての実証等、発見された個々の現象の新規性や一般性も高いと考えられます。